

ソフトテニス審判要領

高体連ソフトテニス部

1 確認事項

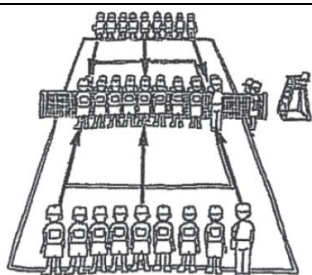
- ① 審判台の位置 ネットポストから 60 cm
- ② ネットの高さ サイドラインの上で 1.06~1.07m
- ③ ボールの空気圧 ボールの下端が 1.5mから落下させて 70~80 cm

2 整列とあいさつ

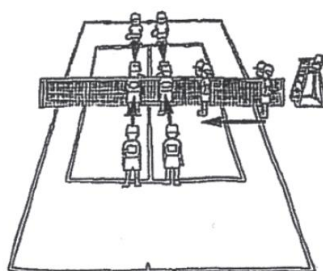
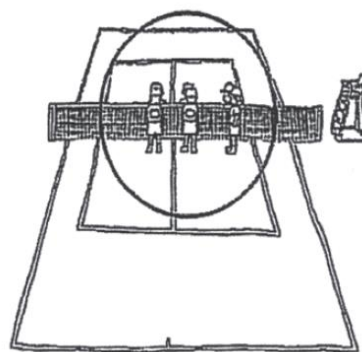
- ① 団体戦・個人戦の選手の挨拶の位置（下図参照）
 - ・正審、副審（線審）はネットを挟んでサイドラインの外側に立つ。
 - ・整列したら「集合」と合図する。
 - ・ネットまで来たら、学校名・ペア名を言って挨拶。
 - ・団体戦の場合はオーダーを確認する。
 - ・団体戦のトスは、各マッチごとに行う。
- ② 終了の挨拶
 - ・個人戦のマッチが終了したら、正審は採点表の記入は後にして先に審判台から降りて挨拶を済ませる。副審はボールを回収し、挨拶時の場所へ。
 - ・個人戦の終了時には、ネットに集合(サービスライン上ではない)
 - ・団体戦の終了時には、開始時と同じベースライン上に整列。
 - ・終了の挨拶時にはお互いを称えあうために握手をするように促す。

チーム同士・各マッチの初めの挨拶

各マッチ終了時(ゲームセット直後)



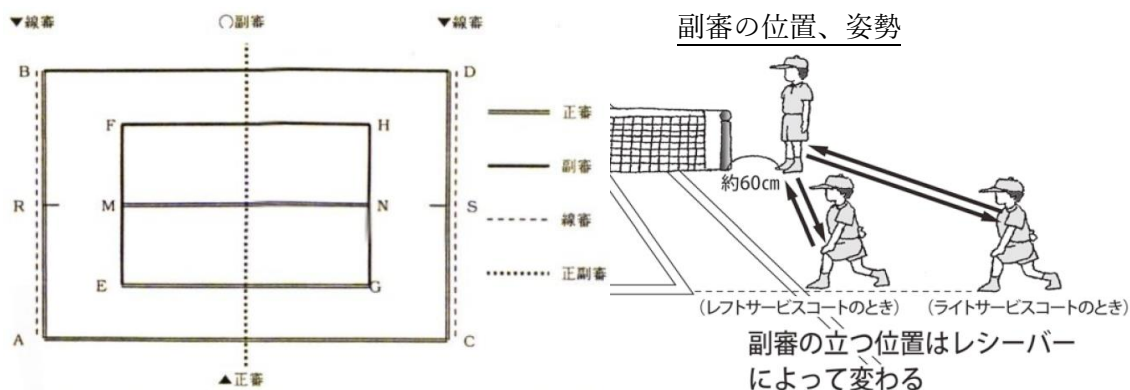
団体戦開始時



個人戦開始時

3 判定区分と審判の位置

- ① 判定区部に害のジャッジをしない（ただし、判定区分以外もよく見てボールを見失わないようにすること）
- ② 正審と副審は質問や確認に備えて、十分コンタクトを取っておくこと。



4 コールとサイン

- ① コール・サインは選手・観客に聞こえるように大きな声で、正しい動作で行うこと。
- ② サービスがネットにかかったら、正審は必ずフォールのコールをする。副審はネットにかかった場合のみフォールのサインはしない。
- ③ 「イン」のコール・サインはしない。（プレイ終了後、選手・観客が判断に迷う場合のみ、コール・サインをする）

5 採点表の記入

- ① 記入漏れがないように左端から1ポイントごとに○×を記入する。各ゲーム終了ごとに○の数を記入する。（AやDを書かない）
- ② サイドの選択の記入を忘れないこと。
- ③ マッチ終了後、必ず勝利者と採点表があっているか確認し、勝者サインをもらう。（団体戦は監督、個人戦はペアのいずれか）

6 質問

- ① 質問に一つ一つ対応してはいけない。質問を確認したら選手・監督は離れて待機させる。必要に応じて正審は副審と協議して結果を伝える。（再判定後の問い合わせは異議とみなす→イエロー）
- ② イン・アウトに関する質問で選手と話をしない。選手を落下点から遠ざけて迷わず速やかに判断する。

7 警告

- 警告を与える場合
 - ・ マッチの開始時、審判が準備完了後に選手がそろわない時、5分ごとにイエロー。
 - ・ 過度のかけ声、相手を不快にする発声。
 - ・ 連続的にプレーしない→「レッツプレイ」→従わない→イエロー
 - ・ ベンチ入り指導者以外からの助言、身体上の手当てを受ける。
 - ・ 異議申し立てをする。
 - ・ 落下点の痕跡を消す→インターフェア（失点）となりイエロー